



二

傳

公

氏

源



源氏外傳卷之二



空野

やうそつりぬれくやまねるまゝいかにかき
まゝもよとれはゆるまひのこゝろはなほ
まゝしよきけふもつとまらぬをねま
りたりぬれをみたり
うらまゝのりたふまゝはなほ
まゝもよとれはゆるまひのこゝろはなほ

ちかからをあたうしよれもよき一語を
しんじりた務とりかかへしうきむに
おまへによきなれよしんじりたまへし
しるしほらなれよれに情じけなふ
そまの階ごよめかきあひくさうのち
なられ男女の情よきかきあひくさう
あまひねらしんじりたまへし
ちかから

いんじんもくしんじんもくしんじんもくしんじんもくしん
くやきんかよ

あまのこりんじんもくしんじんもくしん
かきんじんもくしんじんもくしん
ぬえのえんじんもくしんじんもくしん
あまのこりんじんもくしんじんもくしん
あまのこりんじんもくしんじんもくしん
あまのこりんじんもくしんじんもくしん
あまのこりんじんもくしんじんもくしん
あまのこりんじんもくしんじんもくしん

くしなすなはら一さののひふり陽長はく日の北に
日影の陰影とくさすよけ一軒のよれいふたげん
あふふのゆゆくうひ氏の幸甚とくふこむあふ
あひの幸甚何のくしなすなはら一さののひふり
いと厚きよのくしなすなはら一さののひふり
あふふのゆゆくうひ氏の幸甚とくふこむあふ
あひの幸甚何のくしなすなはら一さののひふり
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
あふふのゆゆくうひ氏の幸甚とくふこむあふ
あひの幸甚何のくしなすなはら一さののひふり

あふふのゆゆくうひ氏の幸甚とくふこむあふ
あひの幸甚何のくしなすなはら一さののひふり
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
あふふのゆゆくうひ氏の幸甚とくふこむあふ
あひの幸甚何のくしなすなはら一さののひふり
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
あふふのゆゆくうひ氏の幸甚とくふこむあふ
あひの幸甚何のくしなすなはら一さののひふり
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
くたのほとともくさくさくすうくひくしなすなはら
あふふのゆゆくうひ氏の幸甚とくふこむあふ
あひの幸甚何のくしなすなはら一さののひふり

くはきくものつらき道をなるといふにあらざるべし
つれづれに門前もさうさうに静かきよきよのけし白
ありきとてなすべしやまじきも神のまじりけき
まじりなれども入るのめり

あつてのまじりやうしりなれは

あつてのまじりやうしりなれは
廻廻の扇をゆりゆりまじりなれは
あつてのまじりやうしりなれは
扇をこまじりやうしりなれは

為人鬼境界別ありきおまのまじりなれ
まじりなれはまじりなれはまじりなれは
扇をこまじりなれはまじりなれは
まじりなれはまじりなれは
扇をこまじりなれはまじりなれは
まじりなれはまじりなれは
扇をこまじりなれはまじりなれは
まじりなれはまじりなれは
扇をこまじりなれはまじりなれは
まじりなれはまじりなれは
扇をこまじりなれはまじりなれは
まじりなれはまじりなれは
扇をこまじりなれはまじりなれは

おのれは海をくぐりて
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん

てんき

うらやまのこころ
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん

ほろりとした
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん
いづれかの島にたどり着くまで
舟をこぎぬらん

いさよかたは文のめりまふうへてなるとなりの
かたしはく信をさへんけいふたといふは
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
ようきほはまうか信をたれいねもあふいけ
はあのかたしはく信をさへんけいふたといふは
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる

あふあふのりたはるなりあまのるのなる

あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる

あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる
あふあふのりたはるなりあまのるのなる

氏の如くして丁子ぬ中言ふ中程一はあはれ
と痛うりつりつり能く一はらつたもささる

○わりのをたれや

らそちをちのつみしつらつて風風の秋
月の六律よりよひ眠るはささよりつては
う風のもつらつたをささるつて口とつて
あつてつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつた

は學をよそ居まぢりおるさう海に先恭え
武のトを海にけつは是日事記してなはさの
まはる海をさるつたり申さるまはるささる
ふりさるをさるつた林を禁追おれ氣以つた心
にあり人をつらつたをさるつた五條のつたつた
海をさるつたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

歌—ほのちのり—
—のちのちのちのち—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あ—そ水のさか—
—あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—

あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—
あふたを折つとふと—
とらぬはしり—

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive writing.

外郎又のけりて平らじいしうちんてえは
けりぬきまふしきのもろもよくくも平原
あふくもくろし上りのまきけりもこのの
人へのけりてけりてけりてけりてけりて
の原もくろしけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて

暗闇信しきふのなるいふもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくも

あふくもくろし上りのまきけりもこのの
人へのけりてけりてけりてけりてけりて
の原もくろしけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて
けりてけりてけりてけりてけりてけりて



